

# 第 1 5 2 1 回 島根県教育委員会会議録

日時 平成 2 7 年 4 月 2 4 日

自 1 3 時 3 0 分

至 1 5 時 1 3 分

場所 教育委員室

## I 議題の件名及び審議の結果

— 開 会 —

— 公 開 —

### (報告事項)

- 第1号 平成27年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について（教育指導課）
- 第2号 平成27年3月県立高校卒業者の就職内定状況（3月末）について（教育指導課）
- 第3号 平成27年3月特別支援学校高等部卒業者の進路状況について（特別支援教育課）
- 第4号 平成28年度全国高等学校総合体育大会「2016 情熱疾走 中国総体」の概要について（保健体育課）
- 第5号 平成27年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰について（教育指導課・社会教育課）
- 第6号 島根県青少年芸術文化表彰（知事表彰）について（社会教育課）
- 第7号 島根県児童生徒学芸顕彰（教育長表彰）について（社会教育課）
- 第8号 平成26年度優良少年団体島根県教育委員会教育長表彰について（社会教育課）

————— 以上原案のとおり了承

— 非公開 —

### (承認事項)

- 第1号 教職員の懲戒処分について（学校企画課）

————— 以上原案のとおり承認

## II 出席及び欠席委員

- 1 出席委員【全員全議題出席】  
仲佐委員長 岡部委員 原委員 広江委員 森委員 藤原教育長
- 2 欠席委員  
なし
- 3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第17条第2項の規定に基づく出席者  
藤原教育長
- 4 島根県教育委員会会議規則第14条の規定に基づく出席者

小林教育監	全議題
今岡教育次長	全議題
山名参事	公開議題
野口参事	公開議題
春日教育センター所長	公開議題
松本総務課長	全議題
松本教育施設課長	公開議題
高橋学校企画課長	全議題
津森県立学校改革推進室長	公開議題
山崎教育指導課長	公開議題
三島特別支援教育課長	公開議題
堀江保健体育課長	公開議題
梶谷健康づくり推進室長	公開議題
荒木社会教育課長	公開議題
恩田人権同和教育課長	公開議題
丹羽野文化財課長	公開議題
小塚世界遺産室長	公開議題
佐藤古代文化センター長	公開議題
鈿福利課長	公開議題
柿本教育センター教育企画部長	公開議題
大場学校企画課企画幹	承認第1号
梅木学校企画課企画人事主事	承認第1号
- 5 島根県教育委員会会議規則の規定に基づく書記

森脇総務課課長代理	全議題
小村総務課人事法令グループリーダー	全議題
小林総務課主任	全議題

### Ⅲ 審議、討論の内容

仲佐委員長 開会宣言 13時30分

公 開	議決事項	0件
	承認事項	0件
	協議事項	0件
	報告事項	8件
	その他事項	0件
非公開	議決事項	0件
	承認事項	1件
	協議事項	0件
	報告事項	0件
	その他事項	0件
署名委員	広江委員	

(報告事項)

第1号 平成27年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について  
(教育指導課)

○山崎教育指導課長 報告第1号平成27年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要についてご報告する。

1の1ページをご覧ください。今年度の試験問題は、平成27年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱の出題の方針によって、基礎的、基本的な知識・技能に加え、思考力、判断力、表現力等を問うものになるように配慮して作成した。全受検者の得点状況並びに受検者の約1割を抽出した結果に基づいて、分析した結果を記載している。

1の2ページをご覧ください。1の平均点、標準偏差だが、5教科総得点の平均は、267.6点で昨年度と比較し10.6点高くなった。教科別では、国語が57.6点、社会が57.2点、英語が58.8点と目標としていた55点から60点に収まる状況であった。一方、数学と理科は、46.1点、47.9点と目標としていた平均点を大きく下回る状況となった。昨年度との比較では、社会、数学、英語が、それぞれ4.3点、3.7点、6.7点と高くなったが、理科については4点と平均点が大きく下がった状況である。

1の1ページで、各教科の状況についてご説明する。全ての教科について共通して言えることとして、基礎的、基本的な事項については中学校での学習効果・成果がうかがえ、ほぼ定着していた。一方で、題意を的確に読み取り理解する力、論理的、総合的に考え、処理・表現する力については課題があり、言語活動の充実等を図ることにより育成する必要があるという状況が見えた。

まず、国語だが、昨年度と同様、約2000字程度の長文の問題を2問出題したが、粘り強く読み込む力は身につけている。文章の中の2か所の表現を参考にして、登場人物の心情について記述する問題も出題したが、その正答が0.6%、部分正答が46.7%になるなど目的に応じて思考・判断し、適切に表現する力の育成には課題が見られた。

社会科だが、ユーロやイスラム教についての知識を問う問題は、正答率がそれぞれ96%、89%になるなど基礎的な知識は概ね定着していた。一方で、原因や結果を踏まえて、前後関係を考える問題、例えば大政奉還の頃の歴史的事象について、安政の大獄、日米和親条約、アヘン戦争を古い順に並べ替える問題の正答率が28.3%になるなど、基礎的、基本的な知識の確実な定着と、それを活用して多面的、多角的に思考・判断する力という点では課題が見られた。

数学だが、平方根を含む計算など、基礎的・基本的な技能、計算力は、概ね身につけているが、素因数分解、平行四辺形の用語の意味理解といったものは、十分ではない状況、三角形が合同であることを証明する問題でも正答が4.8%、部分正答が9.1%、誤答が48.3%とおおよそ半分、無回答が34.8%とおおよそ3分の1といった状況であった。論理的に説明する力の育成も課題と言える。

理科は、日食のときの星の位置の関係の問題など、基礎的、基本的な内容を問う問題の正答率は高かった。やはり思考力、判断力、表現力を必要とする問題は、課題が見られた。例えば、台風の進路、気圧、温度、風力のデータから気象の変化を読み取り、台風が最も接近している時間帯を選択させ、その理由を問う記述式問題があったが、この問題の正答率が8.9%と大変低くなった。他教科等で身につけた知識、技能を活用する力等も含めて思考力、判断力、表現力の育成が課題であった。

英語だが、聞き取り問題の正答率は高かったが、文章を読んで、要点を読み取り、英語の問いに英語で答える問題の正答率は、低かった。英語の問いに英語で答える問題の正答率は、19%、部分正答も含めても20.7%で、誤答が48.9%と約半分、無答率も30.9

%という状況であった。英文を読んだり、英文で表現する力の育成が課題である。

次に得点分布について、ご説明する。国語は昨年度とほぼ同じ分布状況であった。社会科は、70点台、80点台の得点者が増加し、30～50点台の得点者が減少した。数学は、50点台、60点台の得点者が増加し、10～30点台の得点者が減少した。理科は60点以上の得点者が減少し、20～40点台の得点者が増加した。英語は標準偏差が23.4と最も高くなっており、90点台から20点台まで幅広く分布している状況になった。学力の差が特に大きいという状況である。総得点では、平均点が上がり、300点以上の層が昨年度より増加し、平成25年度とほぼ同じ分布になった。

各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査の結果だが、中学校103校、高校39校の各教科を担当する教員に、内容の程度、問題の分量について質問した結果である。国語、社会、英語については、内容の程度、問題の分量ともにほぼ適当が多くなっている。数学については、問題の分量が多いという回答が高校で46.2%と大変多くなった。理科については、内容の程度をもっと下げた方が良いが、高校で23.1%と多くなっている。中学校でもこの2教科については、内容の程度をもっと下げる、分量が多いという回答が他の教科より少し多かった。これらの意見を参考にして、今後の問題作成にあたりたい。なお、各教科ごとの問題別の正答率、分布状況、中学校、高等学校からの調査結果等についてさらに細かく分析し、それをまとめた平成27年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果と分析を作成し、6月に各中学校・高校へ送付する予定である。

○岡部委員 入学試験であると同時に、ある程度学力を把握する重要な指標になっていると思う。分析の結果をまとめられるところだが、現在の中学校において、良い形でそれらが参照されて、現場で指導に活かされているかどうかは気になるが、いかがか。

○山崎教育指導課長 各学校に返した結果が授業改善につながっているかというご指摘だが、各学校への訪問指導などの状況を確認したところでは、中学校の教員もこういった結果を参考にしながら、指導内容について改善を加えているということは何件か話を聞いているところである。それが十分であるかどうかという点については、まだしっかり指導等をしていかなければならないと考えている。

――原案のとおり了承

## 第2号 平成27年3月県立高校卒業者の就職内定状況（3月末）について （教育指導課）

○山崎教育指導課長 報告第2号平成27年3月県立高校卒業者の就職内定状況（3月末）についてご報告する。

2ページをご覧いただきたい。県立高等学校、全日制、定時制を含めて39校の就職内定状況を集計したものである。表1に就職内定状況の年度別の推移を表示しているが、平成26年度は、4,819名の卒業予定者のうち、就職希望者が1,108人であった。この5年間で最多であった。就職希望者の割合は、23.0%で最高であった。そういった状況の中、就職内定者は最終的に1,102人で、内定率は99.5%となった。昨年度より0.9%高くなっているが、ここ5年間で最も高い就職内定率となった。平成15年度から就職内定率を出しているが、最も低かった平成16年度の就職内定率91.4%、平成17年度が94.7%といった95%前後といった状況であったが、今回99.5%と最高になった。就職内定が決まらなかった者も全県で6名と1桁だがいる。全日制で4名、定時制で2名ということで、これらの者に対して、学校もハローワーク等と連携して、今後も支援をしていく。

県内と県外の希望状況等だが、図2をご覧ください。県内への就職を希望する者が平成26年度末で79.3%、県外が20.7%であった。この表をご覧くださいと、若干であるが、着実に県内への就職希望が高まりつつあることが見えてくる。図3をご覧ください。内定者のうちの県内就職者の割合が79.2%と、これも平成15年度から集計しているデータで、最も高い割合となった。中国地方の県内就職者の割合を見ると、平成25年度末のデータだが、鳥取県が81.8%、山口県が80.5%、岡山県が85.2%、広島県が91.9%という状況で、80%を上回り、85%くらいを目ざしたいと考えている。

図4の地区別の内定率の比較だが、特に地区ごとの差は見られず、全ての地区で就職内定をいただくことができた。

○仲佐委員長 有効求人倍率が1.0倍を超えている状況にある中で、6名の方が内定を得られなかったということで、自分にあっている就職先が見当たらなかったということか。

○山崎教育指導課長 6名の未内定者の状況も報告を受けているが、個別に複雑な状況がある者もいて、進路選択を試み、そういう動きを試みようとした状況であったが、なかなか難しかったと聞いている。

――原案のとおり了承

### 第3号 平成27年3月特別支援学校高等部卒業者の進路状況について (特別支援教育課)

○三島特別支援教育課長 報告第3号平成27年3月特別支援学校高等部卒業者の進路状況についてご報告する。

平成23年度、24年度、25年度と過去の状況も掲載しているが、平成26年度の状況が一番下の欄をご覧ください。平成26年度末の卒業生は201名と過去と比較して多い年度であった。内訳であるが、進学は4名であった。特別支援学校高等部の中に専攻科があるので、盲学校、ろう学校からそれぞれ1名ずつ専攻科へ進学した。大学、短大は該当がなかった。各種学校、専門学校等だが、1名は専門学校へ進学し、1名は、これまでは例がなかったが、どうしても行きたい大学があるということで、松江南高校の補習科へこの春から通うことになった。該当する欄がなかったので、各種学校へ記載した。高等学校でも、肢体不自由や聴覚障がいのある方が入学され、支援員の支援を受けながら頑張っているが、この春聴覚障がいのある生徒が松江市内の高等学校から大学へ進学されている。職業訓練だが、知的の特別支援学校から東部技術校、西部技術校へ3名行くことになった。松江ろう学校からは国の機関である岡山にある吉備リハビリセンターへ行き、職業訓練を受けることになった。

就職は55名で、これは一般就労であるが、島根県では30%前後を保っている。例年通りの割合であり、近年の傾向であるが、販売・サービス系のところに就職をしている。福祉サービス等の利用だが、障がいの軽い生徒がA型、B型に行き、生活介護だと、基本的な生活習慣のところから支援を受けながら、そこに通いながらやっていくことになる。その他のところでは、施設に入所したり、グループホームに入ったりという形で生活を送ることになる。これが概ね60%で、例年60%前後である。障がい児施設は施設に入ったまま生活支援を受ける形で、20歳になると成人の施設に入所することになる。入院は7名で、これは病育虚弱の特別支援学校である松江緑が丘養護学校で、医療を必要とする生徒がいて、6名入っておられる。あとの1名は知的の養護学校から、入院医療が必要ということで7名である。未定者の4名はまだ進路が決まっていない。1名は在宅で、残りの3名は、就労継続A型と現場実習をしているとか、自分でハローワークに行き、職探しをしている状況であると

いうことは聞いている。学校の方も支援を継続しているという状況である。

○原委員 質問ではなく、意見だが、益田養護学校の卒業式に行かせていただいた。初めて養護学校の卒業式に行かせてもらったが、心温まる卒業式で、とても感動した。人数が少ないことももちろんあるが、送り出す生徒の保護者の方もご出席され、お世話になった卒業生の方お一人お一人に言葉をかけるとか、高等学校の卒業式とは全く違う卒業式であった。以前、保育所に勤務されている方がおっしゃっていたが、保育園で何か不自由なことがある園児がいたら、周りの子どもが自然と優しくするというのを聞いたことがある。子どもたちというのは、もともとは弱い立場の方々に優しくできる心を持っているが、それが何かのはずみで、間違った方向に行ってしまうと、いじめ等が起きると思う。この間の卒業式に参加させていただいたときに、温かい卒業式をして、送り出す子どもたちと触れ合うことが、いろいろな方々にとって必要ではないかと思った。地域ぐるみで、特別支援学校と何か連携して交流できれば良いと思った。

○岡部委員 特別支援学校を卒業された方の就職ということで、少し気になる点があるが、就職されてその後の定着率等の把握などのフォローはされているのか。

○三島特別支援教育課長 特別支援学校は進路の方針で、卒後3年間を目安にアフターケアをしているところだが、定着率のデータは集計していない。

――原案のとおり了承

#### 第4号 平成28年度全国高等学校総合体育大会「2016 情熱疾走 中国総体」の概要について（保健体育課）

○堀江保健体育課長 報告第4号平成28年度全国高等学校総合体育大会「2016 情熱疾走 中国総体」の概要についてご報告する。

4の1ページをご覧ください。全国高校総体は、規模、内容において高校生最大のスポーツの祭典として開催されており、平成23年度からは全国のブロックごとに開催されている。平成28年度、来年度だが、高校総体は中国ブロックで開催されることになっている。主管県は岡山県となっている。大会の愛称は、「2016情熱疾走中国総体」と決定している。シンボルマークやスローガン等については、記載のとおりである。会期は平成28年7月28日から8月20日で、参加者数は中国ブロック全体で、選手・監督の数になるが、約3万5千人である。島根県では、体操、新体操、柔道、ボート、テニスの5種目を開催することになっている。会場と競技会場は6に記載している。体操は浜田市、新体操は松江市、柔道は出雲市、ボートは雲南市と奥出雲町、テニスが松江市、安来市で開催する。

4の2ページをご覧ください。各競技の想定参加者数を記載している。競技ごとに過去4回の参加者数を参考に、見込み人数を示している。各競技の選手、監督、コーチの数は毎年枠が決まっているので、大きな変化はない。この表の右下、観覧者も含めて99,228人、約10万人の方々が島根県に来られると想定している。4月21日には、藤原教育長を会長とする実行委員会を設立した。今後、県、高等学校体育連盟、会場となる市、町、各競技団体、宿泊、運輸、観光関係、医療関係者等と連携を図りながら、本格的な準備を進めていく。

○仲佐委員長 各市町で参加者等の受入れをされるわけだが、1年先のことで期間がそうないが、受け入れる宿泊施設等の問題点はないか。

○堀江保健体育課長 宿泊サービスについては、全国の高体連の方でJTBと一括契約をされている。JTBが中心となって、選手、監督については配宿等のサービスを行うことになっている。今聞いているところでは、西部の方が宿泊の確保について調整が必要だということ

とである。

――原案のとおり了承

## 第5号 平成27年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰について（教育指導課・社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第5号平成27年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰について、教育指導課分もあわせて一括してご報告する。

この表彰の趣旨は、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体・個人に対して、その実践をたたえ文部科学大臣が表彰するものである。部門は、学校部門、図書館部門、個人団体部門があり、このたび島根県では、学校部門が小学校2校、全国では135校、図書館部門が1館、全国では45館、団体個人部門では1団体、全国では55団体・個人が表彰されたということである。

まず、学校部門であるが、1校目が大田市立高山小学校である。主な実践内容としては、学校図書館担当と学校司書が連携し、学校図書館を活用した教育活動を全校体制で積極的に推進されたということである。一人あたりの年間貸出冊数も100冊を大きく超え、図書館を活用した授業時数も年々増加している。公立図書館や公民館、保育所とも連携を図って、幅広い読書活動を展開された。読書活動の充実だけではなく、家庭学習時間の増加など児童の生活習慣の改善にも効果が見られたということから、表彰されたものである。2校目が浜田市立三階小学校である。アンケートなどをもとに、読書センターの機能と学習・情報センター機能の充実を図っておられる。平成26年度は、浜田市学校図書館活用教育研究指定校として授業公開を10回行っておられる。国語科をはじめとして、様々な教科で授業公開を実施しておられ、読書の質の向上と情報活用能力の育成に努められ、その結果、学力の向上などの成果も見られたということである。

5の2ページをご覧いただきたい。図書館の部門であるが、益田市立図書館が受賞された。この図書館は、毎週土曜日に「おはなし会」を開催され、絵本の読み聞かせを実施されている。保護者世代に絵本に興味を持つ人が増えてきている。学校教育課、社会教育課、子育て支援課が連携され、子育てハッピータイム事業を実施されている。子育てハッピータイム事業とは、乳幼児検診にあわせて読み聞かせや絵本の紹介、子どもの成長過程にあわせた保護者の相談活動などを行われるものであり、子どもから親まで巻き込んだ読書習慣の定着を図っておられる。おはなし会等を20年以上継続して実施されておられ、その活動が地域に定着しているということである。

団体の部門では、邑南町のちいさなろうそくの会が受賞された。夜のおはなし会、これは親子向けの会であるが、大人のためのおはなし会など、親や地域住民向けのストーリーテリングを実施し、親や地域住民に対して子ども読書活動についての関心と理解を深める活動を行っておられる。町内の全小学校8校、全保育園9園で実施をされているというので、これを授業の中で行っており、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を実践されている。

表彰式は、昨日4月23日に東京であった。5のその他に記載しているが、これらは各市町村教育委員会から推薦され、県教育委員会から文部科学省へ推薦し、決定されたものである。

○仲佐委員長 各市町村教育委員会からの推薦される件数は、今回何件だったのか。また県から文部科学省へは何件推薦されたのか。

○荒木社会教育課長 県から文部科学省へ推薦したのは、要綱で1都道府県当たりの推薦数が決まっており、学校は3校以内、図書館は1館以内、団体も1団体となっている。

○山崎教育指導課長 各市町村教育委員会から教育事務所を通じて推薦が提出されるが、昨年度の状況を把握していない。

○森委員 文部科学省から依頼があつて、県から市町村に推薦依頼をされるが、学校や図書館は市町村教育委員会が状況を把握されており、優秀実践団体の推薦も市町村教育委員会がされるが、1回推薦されて選考で漏れた場合、次年度以降何回でも推薦することは可能か。

○荒木社会教育課長 要綱上は、推薦は何回でもできるが、従来から推薦された団体が受賞されており、次年度に受賞を先延ばしした事例はない。今回もだが、県に推薦された団体がこの1団体であった。

――原案のとおり了承

## 第6号 島根県青少年芸術文化表彰（知事表彰）について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第6号島根県青少年芸術文化表彰（知事表彰）についてご報告する。

6の1ページをご覧いただきたい。この表彰は、本県の芸術文化の発展向上に対する功績が顕著で、今後一層の活躍が期待される青少年を表彰するものである。毎年度2回実施をしており、今回は平成26年度の2回目である。第1回目は昨年12月25日に行い、1月の教育委員会会議で既にご報告している。表彰の対象は、表彰要綱で指定された全国規模の大会及びこれに準ずると認められる大会において、最優秀又はそれに次ぐ賞を受賞された方である。先般3月23日に知事室で表彰式を行った。6の2ページに受賞者一覧表を掲載している。今回は5名の方を表彰している。1人目が県立松江養護学校高等部3年生の松本さんである。第21回全国特別支援学校文化祭の写真部門で、りそな銀行賞を受賞された。これは第2位に相当する賞である。県の予選を突破した作品が、本選の全国大会に17点出展されたが、その中で第2位を獲得された。2人目が出雲市立南中学校の3年生の高橋さんである。第15回全国中学生創造ものづくり教育フェア木工チャレンジコンテストのアイデア部門で、特許庁長官賞を受賞された。これは第1位に相当する賞である。全国大会の1次審査を通過したものが10点あり、その中から第1位を獲得された。

3人目が大田市立高山小学校3年生の三國さんである。第60回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部で、文部科学大臣賞を受賞された。第2位に相当する賞である。全国大会で104点が集まった中で、第2位を獲得された。次の2名は、同じコンテストであるが、雲南市立大東小学校3年生の小山さんである。第51回全国児童才能開発コンテストの科学部門において、低学年の部で文部科学大臣賞を受賞された。これは第1位に相当する賞である。「傘のけんきゅう」で受賞をされた。出雲市立四絡小学校6年生の片岡さんである。同じコンテストの同じ科学部門で、こちらは高学年の部の文部科学大臣賞を受賞された。これも第1位に相当する賞で、全国大会では低学年、高学年合わせて133点の中からそれぞれ1位を獲得された。このコンテストの科学部門で低学年、高学年の部を同じ県が独占したのは、初めての快挙である。

――原案のとおり了承

## 第7号 島根県児童生徒学芸顕彰（教育長表彰）について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第7号島根県児童生徒学芸顕彰（教育長表彰）についてご報告する。

7の1ページをご覧ください。先ほどの報告第6号の知事表彰とセットの表彰である。表彰の趣旨は、学術・文化活動において優秀な成果をおさめた児童生徒を顕彰するもので、この表彰も毎年度2回実施しており、今回は平成26年度の2回目である。第1回目は同じく12月に顕彰を行っている。対象は、実施要項で指定された全国規模の大会及びそれに準ずると認められる大会で、こちらは入賞以上と認められる賞を受賞したものとしている。ただし、先ほどの知事表彰の該当者は除くことにしている。3月23日に既に顕彰を行っている。

7の2ページをご覧ください。今回は、1団体と46個人の方の顕彰を行った。ご覧いただくと、いろいろな大会があるが、昨年度の後半にあった大会について、3月に顕彰したものであり、一番人数が多いのが第74回全国教育美術展である。34名の方が特選ということで顕彰を行った。平成25年度が35個人・団体の皆さまを顕彰したので、昨年度より10名ほど多かった。

――原案のとおり了承

## 第8号 平成26年度優良少年団体島根県教育委員会教育長表彰について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第8号平成26年度優良少年団体島根県教育委員会教育長表彰についてご報告する。

8の1ページをご覧ください。この表彰は、県内少年団体のうち、定期的、継続的な活動が他の範となり、明るく住みよい地域づくりに大きく貢献しているものを優良少年団体として教育長が表彰するものである。今回は3つの団体を表彰した。

まず1つ目が、大野子ども会育成協議会である。これは島根県子ども連合会推薦の団体である。大野小学校の児童数は59名と少人数であり、学校行事ではないが、加入率100%の子ども会の活動である。高齢者と子ども達の交流活動である「愛のプレゼント訪問」は、高齢者の方のお宅へ子ども達が手作り作品などを持って行って、そこで高齢者の方から昔遊びを教えてもらったり、いろいろなお話なども聞いたりするというような交流がされている。その他、「ひまわりプロジェクト」や「クリーン大野」等地域の活動へも毎年積極的に参加されている。

2つ目が、上津探検隊である。こちらは出雲市教育委員会からの推薦である。上津の自然の素晴らしさを子ども達に肌で感じてもらおうと、平成14年蛍の観察からスタートした団体である。現在は、休耕田を利用したビオトープ「カエルランド」の管理・整備、それからカブト虫を繁殖させる「虫むしらんど」、「子どもエコクラブフェスティバル」での全国への情報発信など活発な活動をされている。この上津探検隊は、2014年の環境保全団体として、知事感謝状を受賞されている。

3つ目が、土江子ども神楽である。大田市教育委員会からの推薦である。こちらの団体は、一度は活動が途絶えていたが、14年前に再結成して活動をされている。その後大変精力的な活動をされており、イベント等のほか、老人福祉施設や保育園等へも出掛けられて、年間50回以上の公演をされている。また、姉妹都市である韓国大田広域市での青少年文化交流会への参加やドイツ、ベトナム、中国など海外の公演も行っておられる。簡単な衣装や道具

の製作を上級生が行うほか、舞や奏楽、礼儀の指導もすべて上級生が下級生に行うなど、子どもたちの主体的な運営がされている。

3月26日に教育委員室で表彰式を行ったところである。

――原案のとおり了承

#### **仲佐委員長 非公開宣言**

―非公開―

(承認事項)

第1号 教職員の懲戒処分について(学校企画課)

――原案のとおり承認

**仲佐委員長 閉会宣言 15時13分**